

## わが職場

当財団は、昭和九年六月六日に大阪市北区堂島にある大阪帝国大学微生物病研究所構内に文部大臣の主管に属する公益法人として開設されました。その後、昭和二十一年に戦後のコレラ、痘瘡、発疹チフスといった感染症からもたらされる社会不安を取り除くために、ワクチン製造を主目的として観音寺市八幡町に観音寺研究所が新設されました。昭和二五年には、わが国初の不活化精製ウイルスワクチンであるインフルエンザワクチンや不活化ポリオワクチンを完成させ、日本におけるワクチン開発の主導的責任の一翼を担って参りました。現在においても供給可能な生物学的製剤は二〇種類以上を数え、特に水痘ワクチンは、世界一〇〇カ国以上で使用されており、世界で唯一、安全性・有効性について評価できるとWHOに認められて

います。

さて、昨年は新型インフルエンザが全世界で大流行を起しました。この流行は、ワクチンメーカーである当会において、新たな感染症やそれをもたらす病原体の出現にいち早く対応し、ワクチンを供給するといった社会的責任を問われることとなりました。その一方で、職員の安全衛生管理として取り組んだパンデミックインフルエンザ対応を通して当会の危機管理に對する考え方を再考する要因の一つともなりました。

ここで当会における安全衛生に関する活動をご紹介いたします。当会は、安全衛生委員会年間計画に基づき、安全面では労働災害の防止及び発生時の改善対応に、また、衛生面では職員の心と身体の健康管理に努めております。安全管理では、ヒヤリハット報告、KYT、リスクマネージメント、通勤時の交通安全運転パトロールの各活動を行っております。

また、衛生管理におい

ては、定期及び特定の健康診断の他、メンタルヘルスマネジメントを行っております。特に、近年の雇用形態の多様化により、職種、経験年数、男女を問わず、様々な職員に對するメンタルヘルスマネジメントが必要となっております。そこで当会では、管理職に對するメンタルヘルスマネジメント、全職員を對象としたメンタルヘルスマネジメント、カウンセリングを行って参りました。

現在、次世代ワクチンの開発拠点として観音寺瀬戸町に瀬戸センターを建設中です。これからも当会では、職員への衛生管理活動を積極的に行い、また「地域に生き世界に伸びる」をモットーに地域環境と調和し地域社会と融合発展を計りながら、ワクチンを通して世界の人々の健康に貢献して参ります。

財団大微生物病研究会

観音寺研究所

職員課長 岡 豊則